私立大学研究ブランディング事業
２８年度の進捗状況

学校法人番号	041002	学校法人名	東北学院		
大学名	東北学院大学				
事業名	東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	10,074人
参画組織	ヨーロッパ文化総合研究所、キリスト教文化研究所、東北学院史資料センター、東北文化研究所				
事業概要	震災という未曾有の物質文化の破壊を経験した東北において、本学内にあるキリスト教中世的文化財を軸に、時代と地域による人間中心の人文学（人間学）研究に併せて、中世にさかのぼる神中心の神学に基礎を置く綜合的な神学と人文学の研究拠点を確立する。受肉を根拠に物質文化を肯定する神学を土台として、キリスト教によって地域を人的知的に支える大学という本学が目指している大学像を可視化し、更に強固なものとする。				
①事業目的	本学に関連する文化財を神学・人文学の見地から研究することによって、キリスト教物質文化の基礎が神学にあることを確認し、「東北における神学・人文学の研究拠点」を整備構築することが、本事業の目的である。 本研究は本学の文化財の調査研究をきっかけに、神学を人文学の基礎として位置付け、物質文化を再考するとともに、東北の地域性を、ポスト・モダン的価値をもつ文化資源と考える。すなわち神学と人文学の綜合的観点から物質文化を支える拠点を本学に整備し、キリスト教が成立したヨーロッパ中世の復興である礼拝堂とステンドグラスを公開することで中世キリスト教において成立した物質文化の根拠を確認する。それは同時に東北仙台の地域性を文化資源として開発することに寄与する。				
②28年度の実施目標及び実施計画	【目標】 ① キックオフ・シンポジウムを開催する。 ② キリスト教文化研究所、ヨーロッパ文化総合研究所、東北学院史資料センターおよび東北文化研究所は情報環境や機材等の研究環境を整備する。 ③ ステンドグラス制作やヴィクトリア朝文化について、現地で学術調査を行う。 ④ 今後の研究成果を広報・普及するための環境を整備する。 【実施計画】 ① 本学礼拝堂のステンドグラスを前にして、外部からの専門家（高橋裕子:学習院大学教授；平山健雄:光ステンド工房）とともにヴィクトリア朝での中世復興についてシンポジウムを開催する。 ② 情報機器（PC、スキャナ、コピー機など）や研究資材を調達し、情報公開のためのデータベースのシステムを構築する。完成次第、収集資料のデータ化を開始する。 ③ 外部の専門家の協力の下に、専門的な知見を取り入れながらロンドンを中心とする19世紀ステンドグラスの学術調査を実施する。 ④ 本事業のホームページを立ち上げ、上述のデータベースとの情報連携を確立して、今後研究成果や収集資料を随時公表できるようにする。				
	① 平成28年11月5日（土）に、本学礼拝堂のステンドグラスを前にして、ステンドグラス技術の専門家（平山健雄:光ステンド工房）を招いて、市民向けに本学のステンドグラスを紹介する最初の講演会に引き続いて、平成29年3月18日（土）に、リンカーン大学のJim Chshire准教授を招聘して、ゴシック以来のステンドグラスの歴史のなかでの19世紀における中世復興の意味についてのシンポジウムを、84名の参加のもとで本学の押川記念ホールにおいて開催した。19世紀に復興したステンドグラスには、個人の肖像画を取り組むところが特徴であることが示され、あくまで近代の人間中心の産物であることに注意が向けられた。 ② 情報機器（PC、スキャナ）を調達し、情報公開のためのデータベースのシステムを構築した。いずれ同時に図書館で購入した稀覯本（Weigel出版の聖書挿絵、John Martinの版画）のデータ化を開始する。				

③28年度の事業成果	③ ヒートン・バトラー＆バイン工房の子孫また関係者は不明であるが、平成29年2月22日（水）から3月5日（日）まで行われた現地調査では、本学のステンドグラスを制作したヒートン・バトラー＆バイン工房（以下、HBB工房）の位置づけを確認するために、19世紀ステンドグラスの大まかな状況を、ロンドン、オクスフォード、ケンブリッジ、リンカーン、イーリー、ペーターバラで調査し、また現在の19世紀ステンドグラスの研究の中心的役割を果たしているリンカーン大学のJim Cheshire准教授、イーリー博物館のJasmine Allen学芸員から現在の研究状況について情報提供を受けた。またその後、ブダペストのフェレンツ・ホップ東洋美術館主催のシンポジウム（Japonisme in Global and Local Context）に参加し、中世復興としてのジャポニズム、そして19世紀中世復興の意味について、ハンガリー、チェコ、ポーランド、ルーマニア、オーストリア、ノルウェー、アメリカ合衆国、ギリシアからの研究者と議論し、中世復興について西欧（アーツ・アンド・クラフツ）とロシア（ウラジミル・マトヴェイ）そして日本（柳宗悦）では意図するところにおおきな違いがあるような予測が得られた。またドイツのダルムシュタットにあるヘッセン州立博物館では、HBB工房のステンドグラスの図柄の元として利用されたハインリヒ・ホフマンの画業、および中世ステンドグラスについての研究状況を調査し、特にホフマンの大衆的宗教絵画については、大衆的人気ゆえにドイツでは学問的調査がなされていないこと、むしろアメリカで研究される可能性のあることを確認した。 ④ 本事業のホームページを立ち上げ、活動状況を随時アップデートし公開した。上述のデータベースとの情報連携を確立して、今後研究成果や収集資料を随時公表する。 ⑤中世神学についての基本文献であるMansi 編の公会議の全記録集などを中央図書館に備え、787年にいたるキリスト教の教義の成立時の議論が随時参照できることとなった。
④28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	（自己点検・評価） 今年度については、本学の事業推進に係る研究成果の評価を担当する研究推進調整委員会において自己点検・評価を行った。 5年間のプロジェクトの初年度の活動として、短期間に、英国でのステンドグラス調査及びシンポジウム開催等を実施し、今後の研究を推進するうえでの連携の基礎固めとともに、中世復興の意味の違い、爾後の活動の拡がりをさらに発展させる可能性を確認できた。今後、19世紀ステンドグラスを中心に「芸術と産業」のテーマに拡げて研究を推進することにより、東北学院大学ならでは成果が期待でき、東北学院大学のブランド力を高めることに寄与する活動になると期待される。 なお、平成28年度計画の獲得資料のデータ化と公開については、実施期間が4ヶ月であったため実施できなかったが、次年度以降、収集した稀覯本の図版資料を含む資料のデータ化を実施、市民に公開されたブランディング事業の推進を図る。 （外部評価） 平成29年3月18日（土）及び平成29年5月18日（木）に外部評価委員会を開催した。 委員会では、本学のブランディング事業に対する期待とともに、今後の事業を推進する上で、①福音主義と19世紀の中世主義研究の間の、中世そのものの研究の推進、 ②欧米の中世主義自体も、イェイツやラフカディオ・ハーンを生んだアイルランドと、近代物質文明の先頭であったイングランドでは意味が異なるので、さらなる多様性をもった研究の推進 ③東北学院の校祖ホーイとシュネーダーの伝えたキリスト教研究をアメリカの反知性主義との関わりのなかでの研究の推進 ④シンポジウム等の講師やパネリストを共同研究者とする持続的な研究体制の構築 ⑤中世神学関係の文献の収集へのアドバイス等の提案があった。 この提案については、本事業推進に係る事業計画委員会及び研究推進調整委員会において実施に向けた検討を行う。
⑤28年度の補助金の使用状況	【平成28年度事業経費】 ○合 計 7,818千円 ・消耗品費 106千円 ・委託料 297千円 ・通信運搬費 35千円 ・図書費 3,229千円 ・印刷製本費 156千円 ・その他 193千円 ・旅費（国内） 347千円 ・人件費・謝金 1,027千円 ・旅費（国外） 1,985千円 ・設備備品費 443千円 【事業経費の管理体制】 ・事業経費の使用に当たっては、本学の本事業推進に係る全体計画を策定する事業計画委員会において、事業計画に沿った適正な使途を確認している。